

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4.1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論(レビュー)を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成17年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム“J-STAGE”に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成25年度は第64巻を発刊し、次の論文を掲載した。

第64巻

- ・足立 恭将, 行本 誠史, 出牛 真, 小畑 淳, 中野 英之, 田中 泰宙, 保坂 征宏, 坂見 智法, 吉村 裕正, 平原 幹俊, 新藤 永樹, 辻野 博之, 水田 亮, 藪 将吉, 神代 剛, 尾瀬 智昭, 鬼頭 昭雄: Basic performance of a new earth system model of the Meteorological Research Institute (MRI-ESM1)
- ・上清 直隆: The effect of variation of principal components on retrieval of atmospheric profiles from hyperspectral infrared sounder data



気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

平成25年度は、第71号、第72号を発刊した。

- ・第71号 「気候研究のための気象研究所アンサンブル予測システムの概要とその応用」
(藪将吉, 水田亮, 吉村裕正, 黒田友二, 向川均)
- ・第72号 「日本各地域の繰り返し相似地震発生状況に関する研究」
(地震火山研究部, 地震火山部, 気象大学校, 札幌管区气象台, 仙台管区气象台, 大阪管区气象台, 福岡管区气象台, 沖縄气象台)



4.2. 発表会、主催会議等

・ 気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。平成25年度は、平成26年3月19日（水）に気象研究所講堂で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・ GPS が拓く突風・大雨の予測・監視への道
報告者：小司禎教（気象衛星・観測システム研究部第二研究室 室長）
- ・ 局地的豪雨等の予測精度向上に向けた取り組み
報告者：瀬古 弘（予報研究部第二研究室 室長）
- ・ 津波予測の新展開 ― 迫り来る津波を捉え予測する ―
報告者：林 豊（地震火山研究部第一研究室 主任研究官）
- ・ 地球温暖化とともに変わりゆく日本の気候を考える
報告者：佐々木秀孝（環境・応用気象研究部第三研究室 室長）
- ・ 海洋の CO₂ 増加と酸性化 ― 西部北太平洋熱帯・亜熱帯域における実態 ―
報告者：石井雅男（海洋・地球化学研究部第三研究室 室長）

・ 第11回環境研究シンポジウム「水圏・海洋を巡る環境研究の最前線」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び独立行政法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成25年度は平成25年11月13日（水）に学術総合センターの一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：「もうひとつの CO₂ 問題」海洋酸性化と海の二酸化炭素観測
講演者：海洋・地球化学研究部第三研究室 研究官 小杉如央

【ポスター発表】

- ① 黒潮大蛇行が日本付近の降水特性に及ぼす影響
- ② 海面水温の不確実性を考慮したアンサンブルカルマンフィルタによる台風予測実験
- ③ 顕著現象をもたらす下層水蒸気の蓄積における黒潮の影響 ― 2012年5月6日のつくば竜巻のケース ―
- ④ 2010年10月20日の奄美豪雨 ― 気団変質過程による暖湿気塊の形成 ―
- ⑤ 台風通過に伴う海洋の応答と台風への影響
- ⑥ 全球海洋大循環モデルで計算された海洋中の炭素3次元的描像
- ⑦ 海洋データ同化の国際的な動向
- ⑧ 航空機を利用した上空の温室効果ガス観測